

「カラオケ市場」V字回復 2024年度は3200億円、 押し活プランなど好調

「歌わないカラオケ」の利用客が各社拡大、
宴会需要の回復も追い風に

全国「カラオケ市場」動向調査(2024年度)



本件照会先

飯島 大介（調査担当）
帝国データバンク
東京支社情報統括部
03-5919-9343(直通)
情報統括部:tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

発表日

2025/03/27

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

コロナ禍で打撃を受けたカラオケ業界がV字回復を遂げている。2024年度の市場規模はコロナ禍前水準の3200億円まで拡大する見通し。都市部では忘新年会や訪日客、郊外店ではファミリー層の利用が増加した。「歌わないカラオケ」のニーズも拡大し、利用者数を押し上げた。2025年度は個人向けプライベート空間の強化といった差別化が市場拡大の鍵となる。

株式会社帝国データバンクは、保有する企業信用調査報告書ファイル「CCR」(約200万社収録)などを基に、全国の「カラオケボックス業界」(カラオケ)の市場推移および企業動向(業況、売上高)について調査・分析を行った。

集計期間:2025年2月末時点

カラオケ市場、V 字回復 2024 年度は 3200 億円規模に拡大

コロナ禍で大きなピンチに陥ったカラオケ業界が V 字回復を遂げている。全国の主なカラオケボックス運営企業を中心としたカラオケ市場（事業者売上高ベース）は、2024 年度に 3200 億円規模まで拡大する見込みとなった。コロナ禍で需要が落ち込んだ 2021 年度（1740 億円）から大幅に回復し、コロナ禍前の 2018 年度（3485 億円）にせまる勢いで推移している。

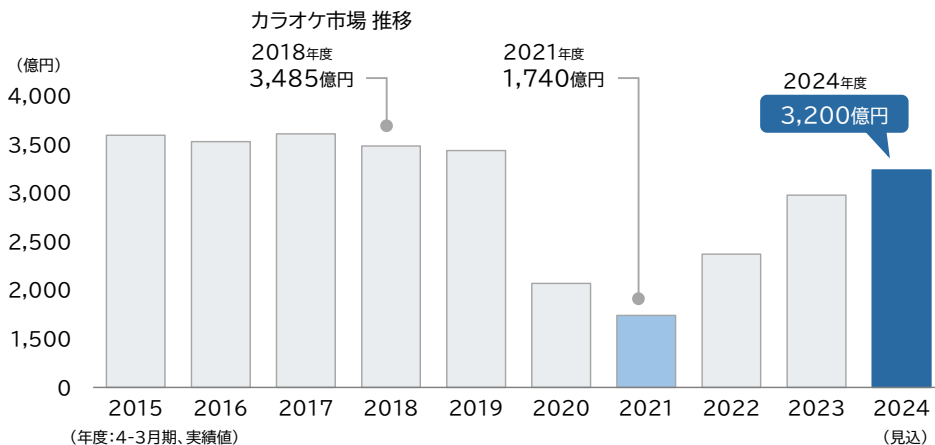
2024 年度は、物価高や消費者の節約志向で余暇への支出に選別傾向が強まり、カラオケでも客単価が伸び悩む傾向がみられた。しかし、都市部では忘新年会をはじめ、コロナ禍で冷え込んでいた団体利用などの宴会需要が復活したほか、訪日客も取り込んだ。郊外店では、ファミリー層による娯楽需要が好調だった企業が多かった。大手カラオケルームではコロナ禍後を見込んで積極的な新規出店や設備更新を進めたことが奏功し、拡大するカラオケ需要を取り込んだほか、ルーム料金の改定なども行い、業界全体では売り上げが増加した企業が多かった。

また、防音性能が高いカラオケ個室の特性を生かし、歌唱以外の目的で貸し切る「歌わないカラオケ」（＝通常のカラオケ利用以外のプラン）を利用するユーザー層の広がりも、市場規模の拡大に追い風となっている。コロナ禍当初は Wi-Fi 通信や大画面など良好な設備環境と、割安な料金を背景にオンライン会議などビジネスユースが下支えしたものの、近時の新たなトレンドとしてルームを長時間貸し切り、グループでアイドルイベントやコンサートの DVD 鑑賞、ライブビューイングを楽しむ、いわゆる「推し活」ユーザー層が拡大している。そのため、鑑賞用に高性能な音響設備や大画面を備えた専用ルームを導入するなど、エンタメ・アミューズメント中心の娯楽需要を取り込む動きも奏功し、客単価の引き上げに成功した企業も目立つ。

一方で、飲食メニューを中心に食材の仕入れ価格のほか、アルバイトなどの人材確保難を背景とした人件費の上昇、都市部では店舗間競争が激化し、利益面では苦戦する傾向もみられた。

2025 年度のカラオケ市場は、主な集客の一つとなる宴会需要では回復傾向が続いていると聞かれ、24 年度を上回る規模に到達する可能性がある。大手カラオケボックスでは積極的な店舗出店を続けており、店舗間競争が再び激化することも想定されるなかで、「歌うだけの場所」から脱却した利用者の獲得による新たな収益チャンスを得られるかが、カラオケ各社の業績を左右するとみられる。

全国「カラオケ市場規模」推移（2015 年度以降）



【注1】 市場規模は事業者売上高ベース（一部推定値を含む）、最新の業績数値に基づく

【注2】 2024年度の数値は帝国データバンク推計の見込値